

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

事業所名：グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体となる法人の理念をそのままグループホームの理念としている。人と人との縁をととも重きをおいている理念であり、とても良い理念だと思っている。今後、グループホーム独自の理念を作って行きたいと思っている。	○	具体的に、グループホームの特徴を分かりやすく表現し、地域密着型サービスにふさわしい理念を作って行きたいと思っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に必ず理念を伝え理解をしてもらうようにしており、新人職員には法人施設長よりオリエンテーションが行われている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族に対しては契約の際に理念等を説明させて頂き、運営推進会議の議事録を毎月ホーム便りと一緒に同封し、ホーム内の実践を伝えている。地域に対してはまだまだ不十分である。	○	地域密着型サービスの理解を地域の方々にしていただくために、ボランティアやホームへ見学に見えられた時などの機会を使い、ホームの理念や実践を伝える時間を設け、少しずつ身近に感じてもらえるよう工夫して行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買い物に出かけた際には、あいさつを交わしたり話をする機会があるが、日常のご近所の方々が必要だと思っている。	○	近隣に住んでいらっしゃるボランティアの方々が良く来てくださり、ホームで様々なレクリエーションを行っている。事前に予定が分かっている場合は、地域に向けて月に1度出しているお便りに、お誘いの文章を載せ、気軽に立ち寄ってもらえるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会への参加をしたり、小学校の作品展に見学に行ったり参加している。また、事業所内で行われる納涼会などには、地域の方々や小中学生がボランティアとして参加してくれてる。		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	ホーム周辺の地域は高齢者の多い地域で、老人会等の活動も盛んだと聞いている。ぜひ集まりの場などで、私どもの知りうる知識や情報を活用していただけるよう取り組みをしていきたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

事業所名: グループホーム南岳荘

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとり、御本人や御家族が不安と感じてしまいそうな点等をこちらの方からお話をするようにし、ご納得、安心していただけるよう説明をするように心掛けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段より、利用者様と積極的にコミュニケーションを図り、意見や不満等をお聞きできるように心掛けている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、写真を添えたお便りを送らせていただき、毎日の生活状況等を報告させていただいている。その他健康上の報告や預かり金・生活上必要な物の依頼などは、速やかにケアマネジャーもしくは居室担当より、その都度来荘時や電話で連絡をとっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のホーム便りには必ず、『御家族様の御意見や御要望等ございましたら、御遠慮されることなく申し付け下さる様お願い致します。』という一文を載せてあるが、実際にはなかなか生の声を聞く事が出来ていない。	○	家族会等行う事が出来ていない為、今後は1年に1度でも良いので、そのような機会を作っていききたいと思っている。家族間の交流・意見交換の場を作っていききたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うスタッフ会議の中で、職員から直接話しを聞く機会を持っている。その場で意見を交換したり、いろいろな取り決めを行ったりしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月行うスタッフ会議にて、現在の業務内容等の見直しがされ、その都度必要と思われる時間帯に職員の人数をあつくりたりして対応するように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は母体である法人の採用となっており、全体のバランスを考えながら職員配置を行っている。出来る限り利用者様への精神的負担をを最小限にするよう心がけている。また、異動等で変更があった場合には、ホーム便りに載せる様にしている。		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員に、研修の情報・研修の機会はあるが、勤務ローテーションの問題等から、研修参加の実績は少ないように思う。ホーム内の勉強会は、積極的に行われている。	○ 職員の経験や段階等に応じた研修参加の機会を調整していくとともに、参加していない職員に研修が周知される様な体制作りをしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に、施設部会というものに参加はしていますが、中々グループホームの方が参加させることが少なく、実際のところ交流の機会は少ないと思う。荘内研修やスタッフ会議等で勉強会を開催し、サービスの質を向上を目指している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	出来るだけ声掛けを行い、ストレスや悩みを話してもらえるように心掛けている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員より資格取得の希望が出たときなどは、ホーム全体で協力している。またご利用者様やご家族よりケア等に対し、お褒めの言葉や労いの言葉などをいただいた際には、職員に伝え運営者として感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用希望があった際は、事前に相手先へ訪問し、ご本人・ご家族より、その方のそれまでの生活歴等のお話しをお聞きし、スムーズに利用につながるよう心がけている。また、利用前にホームを出来るだけご本人に見学してもらえるように、話をさせていただいている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族より、相談や利用希望のお話し等があった際には、時間をかけ話を伺い、ホーム内においてどのような対応が出来るかを話すようにしている。	

事業所名: グループホーム南岳荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に来られた方に対しては、ご希望の内容またどのような条件でサービスを考えられているのかを伺うようにしている。当ホームのサービスに関わらず、一番適していると思われるサービスのご案内をするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境変化に伴うダメージを少なくするために、出来る限りお部屋に愛着のある品々の持ち込んでいもらっている。また利用開始から間もない時期には、ご家族やお知り合い等の方々にモホームへ足を運んでいただけるようお願いしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者は、尊敬すべき人生の上での大先輩であると言うことを職員に自覚してもらい、介護をさせて頂いていると言う気持ち、感謝の気持ちを忘れないように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と出来るだけ情報交換が出来るよう、ホームへ来ていただいた際には、声をかけさせていただき話し時間を持つようにしている。職員側の思いとご家族側の思いを共有出来るように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族との時間を少しでも多く持っていただけるよう、外出・外泊をお勧めしたり、事業所内の行事へお誘いをしたりして相互の関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方の方に対しても、利用者様の家族の一員としてお迎えするようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々に話しをしたり聞いたりする時間を持つたり、利用者様同士が会話をしたり活動をしたりする場面へ職員も加わり、利用者様同士の関係がうまくいくように支援している。		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事業所側からは積極的には行っていない。サービスの終了者が現在他の市町村で生活されているため実施できていないのが現状である。	○	今後は、市内の方々を対象となるのでこのようなケースの場合ぜひ継続的な関係を築いていけるよう心がけていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中でや生活の中で、思いや意向を把握するよう支援している。困難な場合には、ご本人の表情を観察したり、御家族に相談したりと可能な限り本人本位に近づけるように努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	こちらに入所する前の暮らし方等は、面接時にアセスメント等行う時に確認し、職員がいつでも見れるように、個人ファイル等に閉じてある。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々、生活の状況を記録しスタッフが確認出来るようになっている。変化があればその都度情報交換を行い、常に現状を把握出来るように対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様に自分らしい生活を送っていただけるよう、ご本人やご家族より要望など伺い、介護計画書の中に反映するように作成をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間内であっても状態に変化があった場合など、職員間で話し合いを持ち、ご本人・ご家族同意の上で見直しを行っている。(サービス担当者会議を開催するように心掛けている)		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・水分補給・排泄などのチェックはワークシートを作成し、健康状態等を確認している。また、職員が共有しなければならない細かな情報は、連絡ノートにて確認をしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や送迎は、原則ご家族対応としているが、ご家族の状況に応じて柔軟に対応するようにしている。車椅子対応の方も多くなってきており、車椅子対応型の車の貸し出しも行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が地域との接点を持つために、ボランティア等を積極的に受け入れ、協力をいただいている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	月に2回、訪問理美容に来てもらっており、ご本人の希望により利用していただいている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員の方が参加していただいていることにより、市との関係が近くなったように思える。担当者を窓口情報交換を行っている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅生活時同様、継続的に主治医に診ていただいている。往診に来ていただいている方もおり、複数の医療機関にもご協力いただき、色々な場面ですつがなく医療を受けられるよう支援している。	

事業所名: グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○	急変時・終末に対する指針を固め、ご本人・ご家族の希望等の聞き取り・意思確認を行い、書面にて確認し合う方法を検討している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○	重度になっても終末期を迎えても、グループホームで過ごしたいと希望されるご利用者様が、希望通りに生活をしていただけるよう、職員の意識・ケア力の強化に取り組むたいと思っている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ユニット会議の場で職員に対し、機会あるごとに意識してもらえよう話しをしています。現場でも目や耳についてたときに、その都度注意を促している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様、個々にあった声掛けを行い、本人の希望や要望が導き出せるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化していく、利用者様の健康・精神状態に対応する介護支援・自立支援を実施している。日課は一応の基準であるが、状況変化に合わせた支援を実施している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日々の身支度は、ご利用者の希望に合わせて行ってもらっている。(起床時・就寝時に更衣介助を行っている)お化粧品や理美容も荘へ月に1~2回ほど来て下さったり、希望にて外部で行っていただけるよう、支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ご飯と汁物のみホームで調理している。副食類は調理済みのものが運ばれてくるが、盛り付けはご利用者様に積極的に行ってもらっている。また、菜園にて野菜を少しずつ栽培し、皆様で調理して食べたりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	新聞・飲み物などを個人的に定期購入したり、週1度のパン販売・月1度のお菓子販売なので、好きなものを購入してもらっている。また外での買い物も支援しながら個別に行っている。	

事業所名: グループホーム南岳荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンチェックを行ったり、個々のトイレ時のサインを注意しながら、気持ちよく排泄をしてもらえるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日準備をしている。家庭浴槽でゆったりと入浴される方が増えてきており、日によっては順番等決めさせていただく日もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	出来る限り日中に、さまざまな活動をしていただくようにし、良眠につながるよう支援している。また、足が冷える方には湯たんぽを使用したり足浴を行ったりして個別に対応し、ゆったりと休めるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	不定期ではありますが、外出・外食に出掛けたり、食事作りやおやつ作りなど行っている。得意な分野には積極的に参加していただき、職員が指導やアドバイスをを受けたりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方には、ご自身でその都度必要に応じて、財布より自分でその金額を出して、買物をしている。	○	個別に外出の希望が出た場合に、全部聞き入れることが出来ない事があり、工夫が必要だと感じている。職員の体制や利用者との話し合いで上手に計画出来るよう取組んで行きたいと思っている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者様の体調及び気分に応じて、散歩は積極的に行っており、季節によって、花見や紅葉見学をワゴン車等でグループに分かれて全員が参加出来るよう、配慮している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力のもと、外食・外出に出かけられたり、定期的にお墓参りや生家へ行かれる方もいる。		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話があり、自由に使ってもらえるようになっている。また手紙等は、年賀状、暑中お見舞い等を出す支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	一応面会時間を定めていますが、ご家族の都合により時間外であっても来ていただけるように配慮している。訪問時には、各居室やリビングなどで気兼ねなく過ごしていただけるよう心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	荘全体の研修プログラムに身体拘束も含まれており、外部講師による勉強会を行っている。見守りを強化し、環境整備等を行うことで、安全確保に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、夜間以外の施錠はしていない。気分的に落ち着かず、歩いている利用者様には、一緒に散歩に出掛けたりして対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者と同じフロアで記録等の事務作業を行うように心掛けており、さりげなく全体の安全確認をするようにしている。夜間は、定期的に巡視を行い、利用者様の状況を把握するように努めている。また、個々のリスクも職員全員が把握出来るよう、記録等に残すようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じ、注意を促しながら臨機応変に対応をしています。刃物等はご本人の同意を得てステーション等で保管をしている。(希望時その都度お渡ししている)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常は、ヒヤリ・ハットを記録し職員の共有意識を図り万が一の事故発生には、速やかに原因の分析、今後の予防対策を検討し、ご家族への報告を行っている。(事故報告書の徹底)		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応については急変時の対応等マニュアルを作成しており、教育業務委員会を中心に看護師のアドバイスの下、見直しを行っている。	○	救急救命の方法や、緊急時にマニュアル通りの対応が、全職員いつでも出来るように、定期的に勉強会や訓練を行って行きたいと思っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成、消防署の協力のもと、日中・夜間を想定した避難訓練を年2回、利用者も含めて行っている。また、緊急連絡のための職員伝達訓練も定期的に行っている。	○	荘全体の避難訓練は行えているものの、地域との連携を図った訓練は行えていない。避難経路や避難誘導等の細かな部分のマニュアルを作成していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約の際ご家族に対し、身体拘束は原則行わないことを説明している。出来る限り、自由に生活していただけるよう支援している。その分リスクは高くなると思うが、職員の努力にて見守り重視で支援をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子に変化が見られたときは、ただちに看護師と連絡を取り合い、早期発見を心がけている。職員間では、状況を共有し対応している。(入浴時・毎週土曜日はバイタル測定を全利用者様行っている)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬はマニュアルにそって職員が利用者の名前、薬の確認、服薬終了までを確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便促すような食べ物(野菜・乳製品)や飲み物(牛乳等)などを摂取していただけるようにしている。(個人で購入されている方もいる)		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人的に往診にて口腔状態のチェックをされている方もいるが、ほとんどの方が起床時・食後・就寝時に居室にて歯ブラシを行っている。義歯は、就寝時には必ず消毒をしている。		

事業所名: グループホーム南岳荘

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量・残食量をチェックし、ワークシートに記入し、情報の共有化を図るとともに、不足がちなときは好きな物を召し上がっていただいたり、気分に応じて時間をずらして対応したりと配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し、毎年見直しを行いながら、職員に予防と対策の勉強会を行っている。インフルエンザについては、ご利用者・職員全員が予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生に関しては、まな板は1日おき、三角コーナー等は夕食後にハイター消毒を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口が大きめな自動ドアの造りなので少し温かみにかける、少しでも温かさを感じられるよう室内への入り口ドアを木目調の造りとした、また玄関には利用者の生けて下さった花などを飾るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには利用者と共同で作成した、カレンダーや作品を飾り季節を感じられるような工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるフロアに、ソファ、畳を置きくつろげるスペースを作っている。また大型テレビ、ピアノを自由に使えるようにしている。		

事業所名：グループホーム南岳荘

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に馴染みの品を持ち込んで頂き、本人、ご家族、職員の協力のもと、その方らしいお部屋作りを行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	感染症対策も兼ねて、全居室加湿器を御家族に持参していただき、対応している。夜間帯は、全居室の洗面台にぬれタオルを広げて、乾燥予防に努めています。臭いについては、フロア・トイレ共に換気扇・消臭剤にて対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日頃より利用者にとっての危険箇所をチェックするように心がけ居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。(荘内に安全管理委員会があり、定期的に危険チェックを行っている)		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に、名前と写真を掲示している。また、居室には家族との写真や、可愛がっているぬいぐるみなど見えるところに置いている。在宅で使っていた物を出来るだけ持ち込んでもらい、不安と混乱を防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑スペースを用意しており、花、野菜など自由に作ってもらえるようになっている。玄関前は、広々としたスペースになっており、敷地内には東屋もある。外気浴や外でのレクリエーションに活用している。		

事業所名: グループホーム南岳荘

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)